大学生のための…

マンガ



原作・小林多喜二 作画・藤生ゴオ 解説・島村 輝 企画・編集 白樺文学館 多喜ニライブラリー

30分で読める…大学生のための マンガ蟹工船

Contents

目次

マンガ蟹工船(原作・小林多喜二/作画・藤生ゴオ)

p 6

解説・「蟹工船」を解体するキーワード

―映画・暴力・汚穢と聖性

(女子美術大学教授 島村 輝)

p 165

原作者·小林多喜二紹介

(白樺文学館多喜二ライブリー学芸員・佐藤三郎)

p 179

- ●本作品のテキストは、『小林多喜二全集』(新日本出版社 1993年)第2巻「蟹工船」に準拠したものの、コミックとしてのテキストの性格上、原作とは異なっていることをおことわりします。
- ●今日では不適切な用語がありますが、原作にしたがい当時使われた歴史 的な言葉として採用している表現があります。
- ●資料は、井本三夫編『北前船の記憶』(桂書房)、映画「蟹工船」(山村 聴監督 現代ぷろだくしょん制作)、映画「時代を撃て・多喜二」(池田博 穂監督、「時代を撃て・多喜二」製作委員会制作)などを使用し、北星株 式会社、「時代を撃て・多喜二」製作委員会、井本三夫、小林純一郎の各 氏にもご協力をいただきました。

人々にこの一冊を捧げる―― 日本資本主義の黎明期にあって犠牲となった幾多の

白樺文学館多喜ニライブラリー



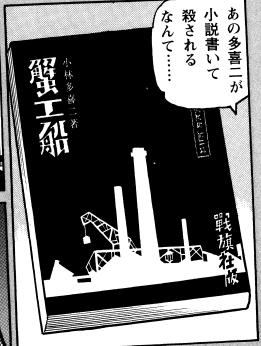














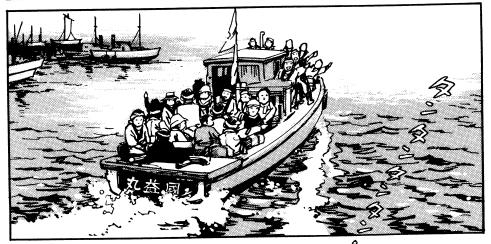












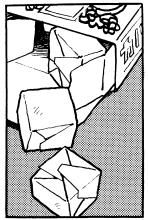
















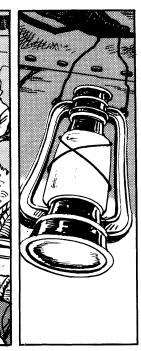


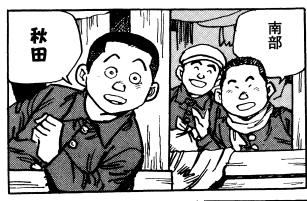






















このカネ で子ども

来たぁ?





七年い















【白首】しろくび。

おしろい

を首筋に濃く塗りつけた人の意





蟹工船

































て

るのだ













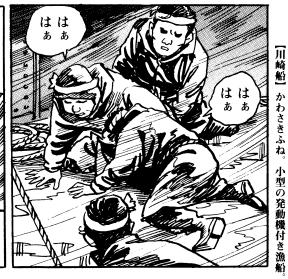






















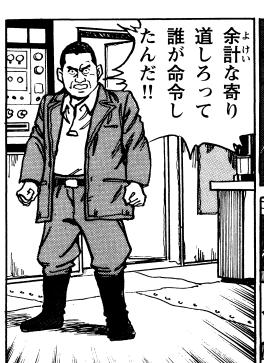


めしが

しだ

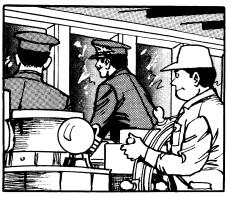
【いけホイ

して】行き倒れの乞食のようにガツガツ食べること。





蟹工船 三折り











































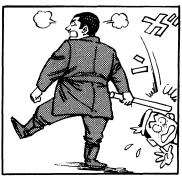






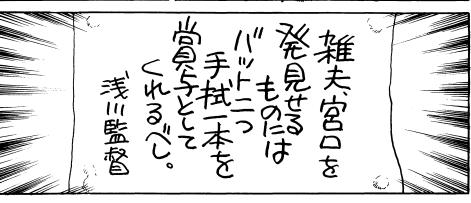


宮口さは:



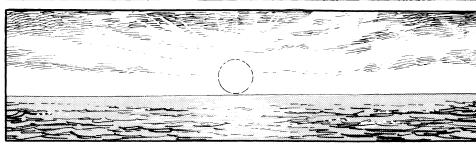


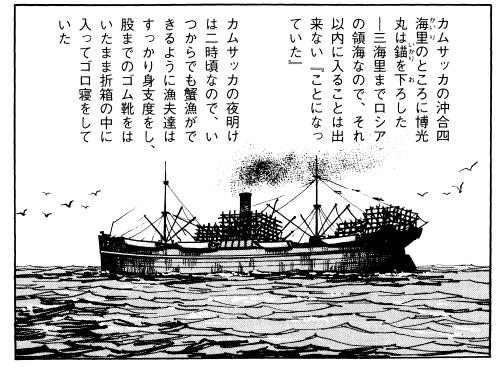
夫宮口を 浅川監督





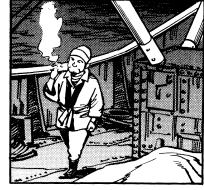


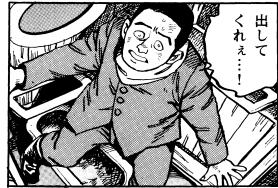


























宿料、

毛布、

それに周旋料を

前借りすること 俺は六十円を

に決めて汽車賃







見廻って歩いて

火夫の室まで

病気のものも

風邪をひいて

いるものも

かまわず引き

不貞寝をさせるもらったり

払って連れて ために高い金

たんじゃ

【不貞寝】ふてね。

ふてくされて寝てしまうこと

監督は雑夫や

水夫、

三時だった

ていたがまだ





朝は

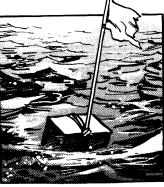
寒かっ

力

明るくはなっ

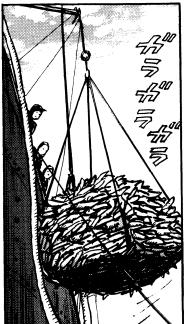
出された







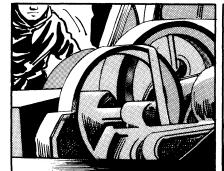










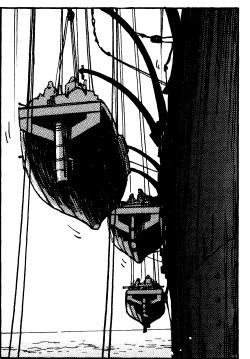




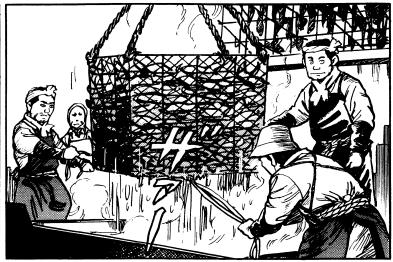
宮口をどうし

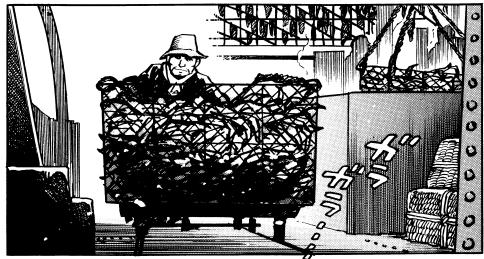
蹴ってるんだっならんと足で

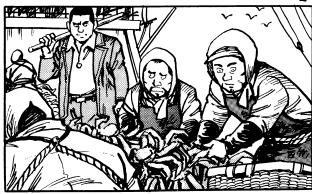




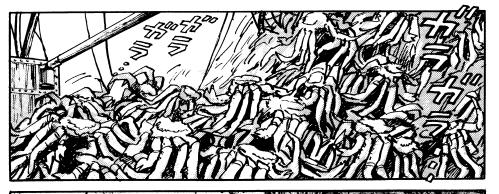


















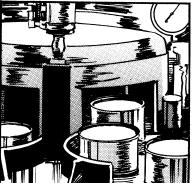


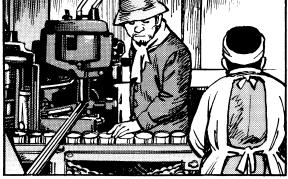










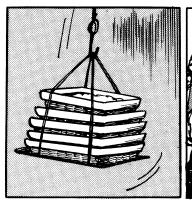




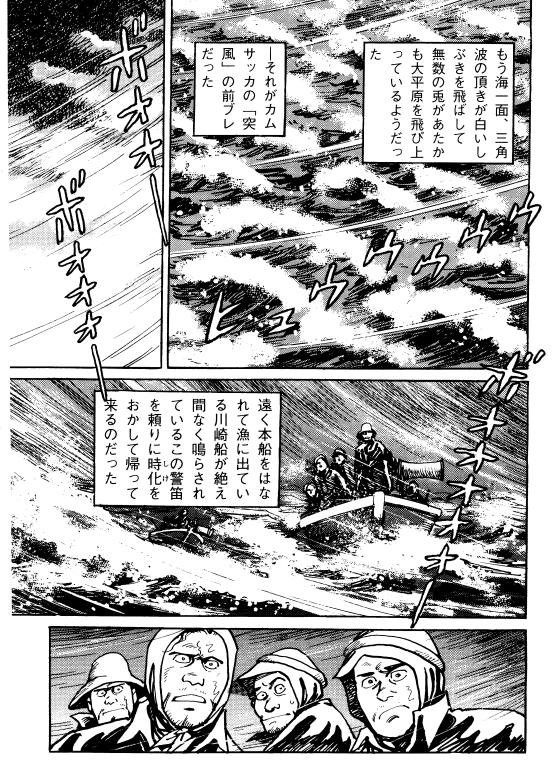






































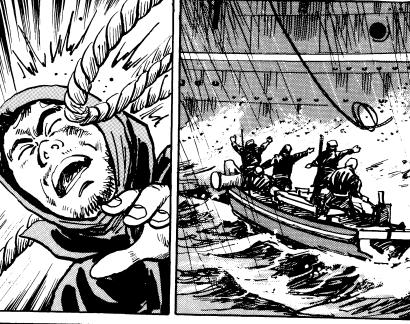
した?













Ŧį,







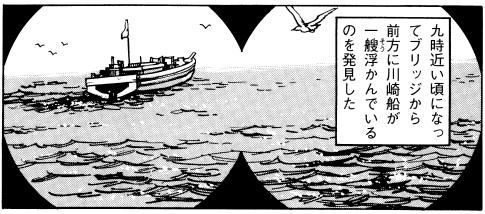




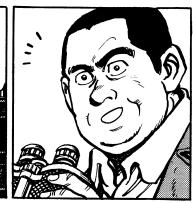




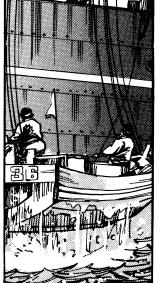












あるぞ… 写真も の





をしらべたり、それぞれ万一の

時にすぐ処置が出来るように取

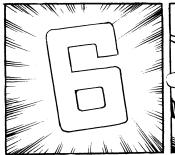
た彼らの荷物や家族のいる住所ツンと空いた棚から残して行っ

そこだけが水たまりの



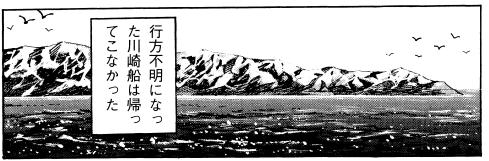






































負け







書いて 歴史が 大富源が

屈しないで それでも

































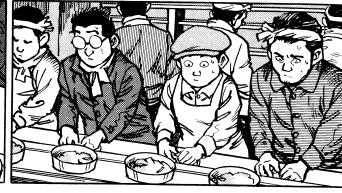


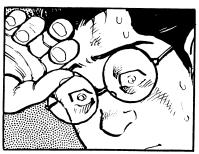








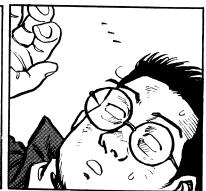












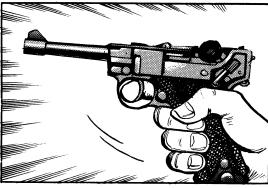




































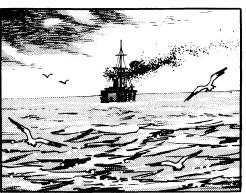








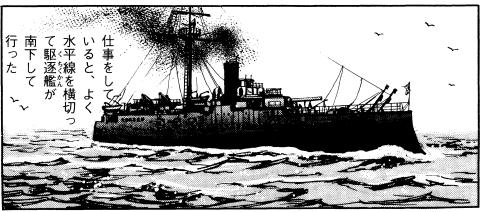


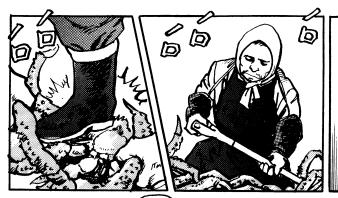






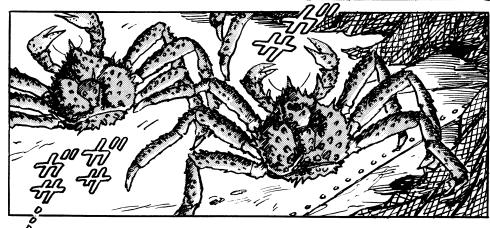










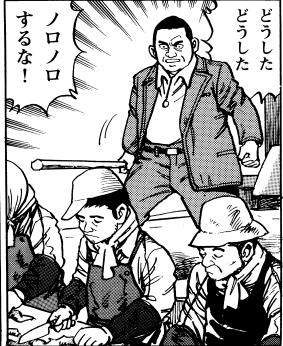




































身体を楽に使うと

っても、

ただ ボ

いうことでしか





















知らせられ

なかったので 無線を頼む金も





だど二ヶ月も 子供は死んだん 俺がとこの





すまね

ひどい所に

るんだな

しかし

【蚤】のみ。

吸血する昆虫。

伝染病を媒介するものもある。

















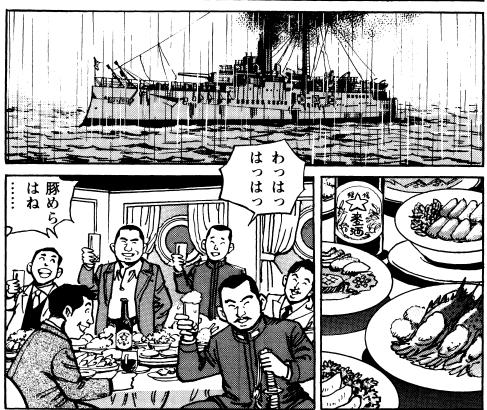
六カ月に

一年千万円-



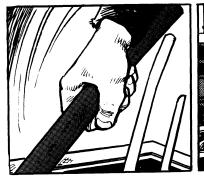
























な

糞喰え



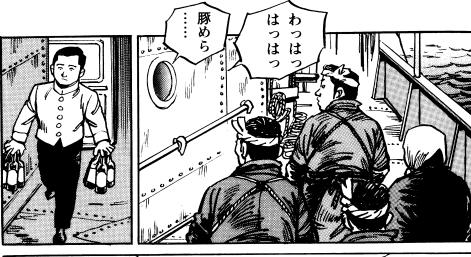
酔っ払って あげくに

ゲロゲロ















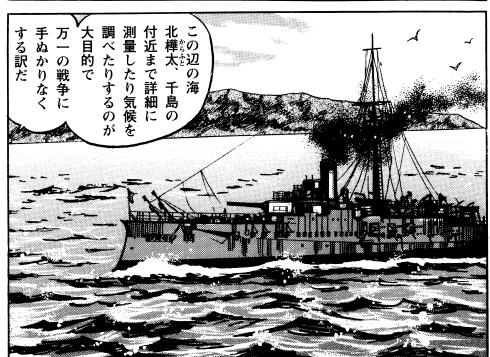






























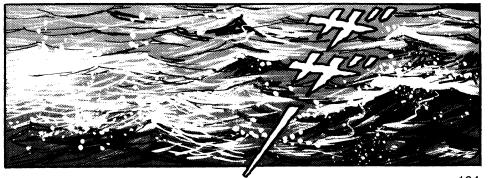












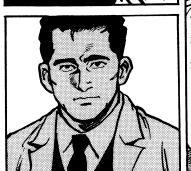










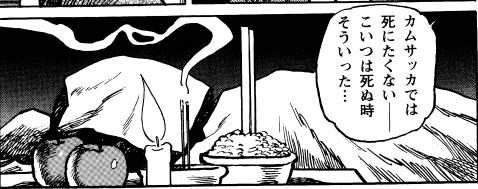












麻袋だがな れる

それから

そりゃァ誰だ







脚気の漁夫が なったころ 皆を苦しめな うめき声が 彼が治りかけ 前から寝たき







だよ

ことが 後々の

ないことに とんでも

なってしま

つ

取りとめた どうにか命を 「不思議」に その漁夫は それを書かせな

船では

ことになってるん

たので何気なく診断なくなった漁夫が来ない。浅川君に

書を書い

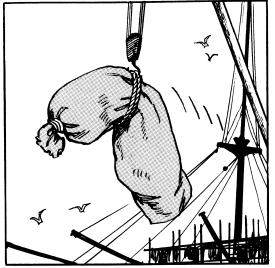
ったら



















では

誰が

殺したか?

次の朝、

八時過ぎまで

仕事をし

















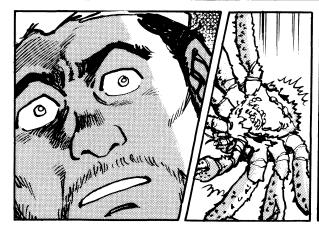




















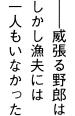












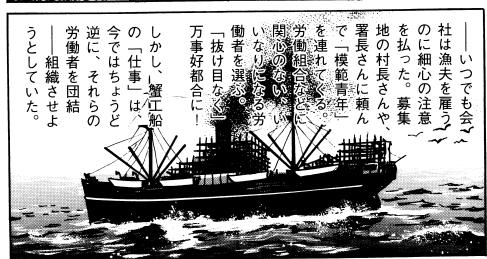




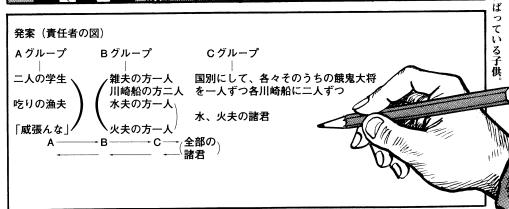


















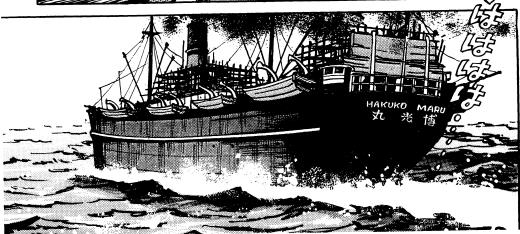




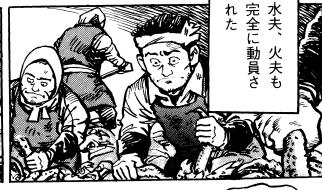












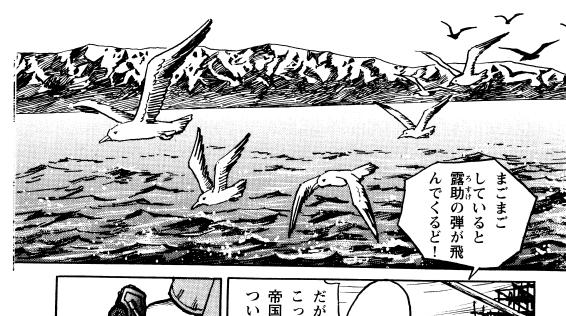


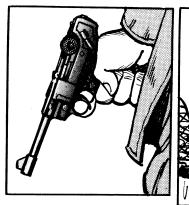






















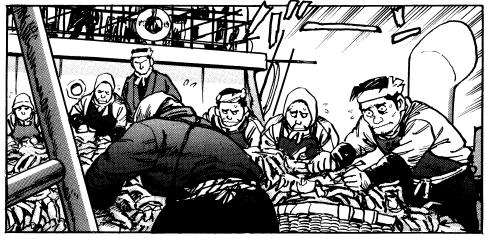












127

つまっていくんだ











と火夫がいなかっ

だけど水夫

たら動く

出して作った から船がある

金持ちが金を



て行く

か?

金が入る?

力さ

みんな俺達の 生ぜじだっ 無から有は

体どのぐらい

いて、 夏ここで

金持の懐に入 匹の蟹だって ਣ੍ਹ

なかったら だけど俺達 蟹が海の底

に何億っている



食われてい

まるで蚕に

苦茶は

この滅茶 どうだっ

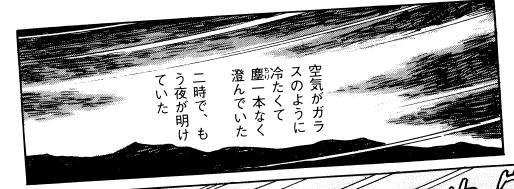








































































分っ

























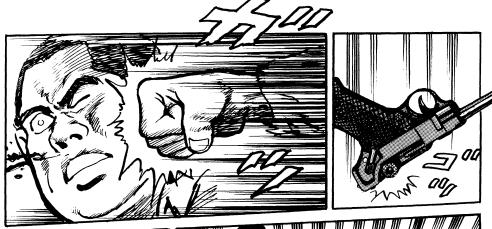


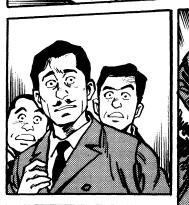




































































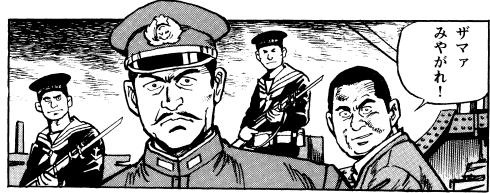
























漁夫たちは監督を

ものだと思って ひどい事をする

いったの方へと深く入り込んできれは今では皆の心の底



今に見ろー

【斎戒沐浴】汚れた体を洗って清潔にし、

けがれをとること。

しまっていた

だが

155



駆逐艦に無電は監督だって

ったろう

そしたら



















かえって その方が

助かるんだ





駆逐艦を

それでも

呼んだら

皆で























解説]

弼」 を解体するキーワード

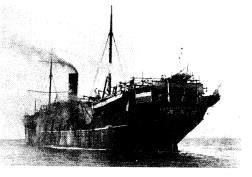
輝る

【プロレタリア文学の代表作】

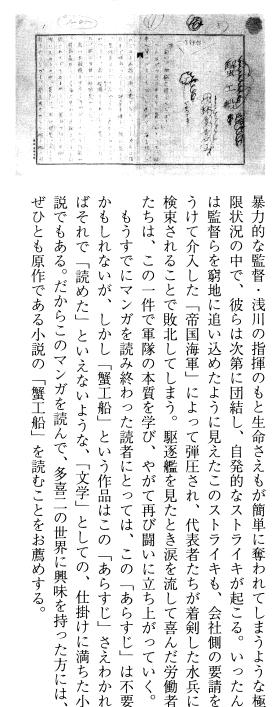
監督・山村聡)と、この作品はさまざまに形を変えて受けとめられてきたが、 から戯曲化されて舞台で上演されたり、 学の象徴的作品として知られてきた。 今回藤生ゴオ氏の迫力あるタッチでマンガ化されたことで、この作品に触れる 小林多喜二の代表作としてばかりでなく、 小説として読まれるだけではなく、早く 新人作家として画期的な名声を博して 日本プロレタリア文 (一九五三年、

節労働者たちが、地獄のような労働条件のもとで酷使されていた。すさまじくもとに出漁する蟹工船「博光丸」では、坑夫・農民・漁夫・学生など雑多な季 時は一九二〇年代。基地の函館人々の層は画期的に広がるだろう。 基地の函館からカムチャッカ海域へ、 帝国海軍の援護の

蟹工船「樺太丸」2,800トン (1927年)



小林多喜二の「蟹工船 | 肉筆原 稿は、前半が日本近代文学館 (東京・駒場)に寄贈され管理さ れているものの、後半部分はそ の存在が確認されていない。



もうすでにマンガを読み終わった読者にとっては、

やがて再び闘いに立ち上がっていく。

この「あらすじ」は不要 「あらすじ」さえわかれ

しかし

「蟹工船」という作品はこの

「文学」としての

仕掛けに満ちた小

多喜二の世界に興味を持った方には

「蟹工船」を読むことをお薦めする。

彼らは次第に団結し、

の指揮のもと生命さえもが簡単に奪われてしまうような極

自発的なストライキが起こる。

いったん

「帝国海軍」によって弾圧され、

代表者たちが着剣

した水兵に

【執筆の背景となった 「蟹工船」の実態】

待はすさまじいばかり を行なってい この小説の 執筆に、 た。この作品に出てくる蟹工船のボロ船ぶりや漁夫・雑夫ら だが、 多喜二は並々ならぬ決意と方法的な自覚を持 それらの多くは当時実際にあ った事実をモデ って、 の虐 ル

蟹工船の操業は一九二〇年頃からはじめられてい たが、 て る。 4 チ ヤ ツ カ海域 使へ

た船が転用されたものもあった。 大量出漁は一九二三年 たものである。 のが多く、 (大正一二) その ロシアの病院船として使用されていた「カザ 中 には からであるとされ 日露戦争での戦利品として没収され いカ 蟹工船漁に

られ、 は、 海域で暴風雨のため座礁し、 されていたところでもある。 業権をめぐってソビエト連邦との間で複雑な利害の対立があり、 なったのもその例である。また、 し伸べなかった。 (大正一五)年のことである。 「蟹工船」執筆にあたって直接の素材とされた事件が起きたのは、 「秩父丸」からの救助信号を受信していたにもかかわらず、 このとき、 厳しく非難された。 「笠戸丸」に、「バイカル号」が 「秩父丸」と前後して出漁していた「英航丸」その他の蟹工船 この事件は、 乗組員二百五十四人中百六十一 この年四月二六日、蟹工船 『小樽新聞』などのジャ 蟹工船の主要な漁場であった北洋一帯は、 「秩父丸」に名前を変えて蟹工船と ナリズムにとりあ 「秩父丸」は北千島 人の犠牲者を出 救助の手を差 国際的 に注 L

引き金となって自然発生的なストライキが起きた事件などは、 えきれず脱走を企てた四人の雑夫を監督たちが鉄の蟹カキでリンチ 理に伴う凄惨なリンチ・虐待の実態はかなりセンセー ちの虐待事件が詳しく報道された。 九月に入ってからは、 「秩父丸」を見殺しにした 「博愛丸」や 蟹工船労働の現場で行なわれていた労務管 「英航丸」などでの漁夫・ 「英航丸」で起こった、 ショナルに報道された 虐待に耐 それが 雑夫た

『小樽新聞』(1926年9月8日) 「蟹工船博愛丸に雑夫虐待の怪 事件」は、「漁夫雑夫十余名は 函館水上署に出頭し監督阿部金 次郎が出漁中漁夫雑夫を虐待し 尚二名が行方不明になつた事件 を訴へ出た」と報道。



多喜二はいう。 蟹工船とは、

記した背景には、 より一般的・普遍的な政治・経済の仕組みであり、直接には、植民地や未開地 がらせている政治・経済の複雑な関係とを、 における搾取の実情 しての蟹工船そのものではなく、その「特殊な一つの労働形態」の背後にある、 多喜二が蔵原へ宛てた手紙のうちに執筆意図として先に述べたような言葉を およびこれら相互の関係といった事象であった。 どんなものか、ということを一生ケン命書いたものではない」と 『蟹工船』という特殊な一つの労働形態を取り扱っている、 言い換えるなら、ここで多喜二が描こうとした対象は、事物と 圧倒的多数の労働者が未組織である実態・帝国主義戦争

表にともなって起こったさまざまな出来事を通じて、こうした事実や背後関係 喜二が深く関わっていくことになるのは、 を伝えようとするジャーナリズムの流通の場をめぐる権力との闘争の 問題意識があった。そうしたことを背景におくと、この作品の発 蟹工船をめぐる生々しい事件と、その事件を表面に浮かび上 必然の道筋でもあった。 労働者大衆が知る必要があるとい

【同時代の反響と今日的な意義】

発禁処分となったにもかかわらず、この作品 「蟹工船」発表にあたって、 後半の掲載された『戦旗』六月号はそれでも発禁を免れなかった。 検閲への考慮からかなりの部分が伏字とされた はプロレタリア文学の世界ばか しかし n

【綿密な調査と執筆の意図】

蟹工船の実地調査をしたりしている。また蟹工船の漁夫とも直接会って、 資料用の新聞から、関係記事のスクラップを作ったり、 い実態の聞き取りも行なった。 多喜二は一九二七年 綿密な調査を行なってきていた。手塚英孝の手による詳細な評伝『小林多喜二は一九二七年(昭和二)三月以来、蟹工船とその漁をめぐる事件につ 一九五八年)によれば、彼は当時勤務していた拓殖銀行の 週末には函館を訪れて

そこには「一九二九・三・一〇、午前 月間)を要す。 一九二八年(昭和三)一〇月末から、 足かけ六か月を費やして翌年三月一〇日に下書きの 多喜二は「蟹工船」の執筆にとりかか

その原稿を当時新進気鋭の批評家であった蔵原惟人に送った。「主人公」とい成した小林多喜二は、その内容についてみずからコメントした手紙を添えて、 心理描写を無くしたこと、プロレタリア芸術大衆化のためのさまざまな形式的 うものをたてず**、** 三月二〇日、下書きのノート稿をもとに訂正・加筆を施して「蟹工船」を完 約弐百枚(百八十枚)」というメモが書き入れられている。 「集団」を描くことを主眼としたこと、各個人の性格描写、 一時一五分擱筆す。百三十三日間(六カ ノート稿を完成した。

は主に小説の技法・形式上の問題について触れられているのに対して、

その内容面で、

どのような点に主眼を置い

たのかが語られている。

たって、多喜二が構想したことの要点が、

工夫をしたことなど、この手紙の中には「蟹工船」という小説を執筆するにあ

率直に記されている。手紙の前半で

広く一般文壇にも好意的に迎えられ、多喜二を一気にこの領野のス 大きな飛躍台となったのである。

社会機構との関係に於いて描きだしている」(「『蟹工船』その他」、『新潮』 まう危険」を指摘しつつも、多喜二の執筆意図を十分に汲んで「その作品の根 日「蟹工船」が読まれるべき理由の一つも、まさしくここにある。 ない街』連載の第一回が掲載されていることも、単なる偶然とはいえない。 た問題意識は、 29・7)と述べたことにも見られるように、多喜二が執筆にあたって持ってい う題材を、蟹工船の世界だけのものとしてでなく、現代の日本の資本主義的全 重役とを一つの光景中に見通させている」(「日本のシンクレーア あるが、平林初之輔が「オホツク海の工船に虐使されている労働者と丸ビルの 底に常に何等かの大きな社会的『問題』を置こうとしている」(「作品と批評」、 「蟹工船」」、『東京朝日新聞』29・5・7) 『東京朝日新聞』 29・6・17~21)と高く評価したのは、 蔵原惟人が「集団を描こうとするのあまり、個人がその中に全然埋没 やはりプロレタリア文学の記念碑的作品の一つとなった徳永直の『太陽の 流通されることの求められていたものだっただろう。発禁となった六月号 その時代の要求するものによく適ったものであり、まさに書か と評し、 勝本清一郎が 当然といえば当然で 「蟹工船とい -小林君の して

た資本主義は、 に思われるかもしれないが、 表面的には当時と今日では国際関係も、産業の実態も大きく変っているよう 根本的にはその仕組みを変えずに今日はさらに大規模に、 当時このような状況を作り出していた、 世界化し

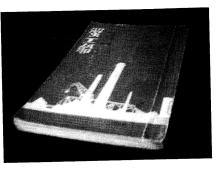
たちも「生命を的」の状況にあり、うつ病や自殺に追い込まれる人々も少なく隠蔽されているのが実情である。「蟹工船」とは違った意味で、現代の労働者 ないのである。その実態に目を開き、 との重要性を語っている点において、この作品の生命はまったく失われていな いばかりか、むしろ今日にあって改めてその徹底ぶりを評価される機縁を得て るというべきだろう。 しかもそのことのもたらすさまざまな矛盾や不幸は巧妙に 「蟹工船」とは違った意味で、現代の労働者 ごまかされることなく状況に向き合うこ

カットとシーンの積み重ね――「映画的」手法】

さまざまなことばによる仕掛けが施されている。 沢山の作品を見るとともに批評も残しているが、「蟹工船」にはそうした映画 内容面はもちろんだが、このマンガの原作となった小説には、 ふんだんに取り入れられている。 多喜二は映画に興味を持ち、 形式の面でも

から学んだ方法が、 さらに細分化され、たとえば漁夫たちの船室の場面は、 る水兵たちと、次々と場所を変え、移動していく。またそれぞれの場面の中は んだりする漁夫たちの姿、 漁夫たちの船室、駆逐艦に帰るためにタラップを降りる艦長とそれを抱え 場面は港、二人の漁夫の姿、上から覗き込まれた雑夫たちのハッチの様 漁夫たちの雑談、 坑夫あがり漁夫の回想、 酒を飲んだり雑誌を読 沖売りの

『蟹工船』<日本プロレタリア作家叢書 第2篇>が、戦旗社から1928年 9月25日 に発売され、即日発売禁止になる。 年11月8日刊行の改訂版も、安寧禁止処 分に付され、30年3月刊行の改訂普及 版が発行された。半年の間に3万5000 部を売りつくすという、当時としては 記録的な発行部数となった。



浅川監督の暴力性

にリアルに納得させる大きな原因とし やや逆説的ないいかたになるが、 て、 0) 、監督である浅川の、けた外れの暴力・迫力ある労働者たちの反抗を読むもの

ものには、 船長をも超える力を揮い、酷使によって身体を壊したり、 ど、労働者たちへの過酷な仕打ちで知られる存在である。 のものである。 の入った桶を持っ 圧倒的な体力を誇る監督・浅川は「蟹工の浅か、 要らないものなんか見なくてもえ、、 本編のマンガにも描かれているとおりである。 彼は反抗 対する仕打ちがこれにとどまらず、 容赦なく 作業に疲れた学生出身の労働者が倒れたところに浅川が通り てこさせてそれを学生に浴びせ掛け、 しようとした漁夫にピストルをちらつかせながら威嚇し、 「焼き」を入れる。 仕事でもしやがれ!」 ときにそれは彼らの生命をも奪うほど 漁夫たちを縮み上がらせるようす 浅の蟹工か」 「これでえ 会社の代弁者として、 逃亡を企てたりした

多喜二はもともと人間の暴力的な部分を描くこと 作家としての全国デビュ タリア作家としての本格的デビュー以前に書き、 いう男が主人公として描かれて 棍棒を持って夜の 一九二八年三月十五日 への関心が強かったと思 いるし、 石狩川に行き 結局生前は発表さ では、 プロ

地獄船エトロフ丸での労働者虐 待を報道する『東京朝日新聞』 (1930年9月22日付) の報道

> 区切りを作り上げ、 っていることとよく それ 映画 らが 0 61 ラシ うも って 0 いる。 」はさらに 多喜二はあきら の連続によって 「カッ の ーっ 重 画を意識 ねに \mathcal{O}

、や商人たちと漁夫たちとのやりとり、

とい

つ

たような

11

くつもの部分の積み重ねによっ

て作り上

意味

職工出身の漁夫の回想、

サロン

描写と回想とを交互に配置 ているのである。 して 17 るやり方は、 映画のフラッシュバ

たちの船室を描く 法を思わせる。また時の経過に従 両方の場所の持つ意味を象徴的に表現する の間に、サロンの様子を挟むことによって、 「モンター ・ジュ」 シー って漁夫

タリ 鮭を 【映画「蟹工船」】小林多喜二の原作、を俳優・山村聡が脚色・監督した。モノクロ112分。現代ぷろだくしょん作品。1953年製作。山村聡、森雅之、日高澄子、河野秋武などが出演している。(映画「蟹工船」より)資料提供=北星株式会社=以下同



漠然とした不安な自覚が、皆を不機嫌にだまらせていた。 うにキョトンと口を半開きにしているものもいた。誰も、何も考えてい なかっ

わかる。このような比喩の多様はここに限らず、この「蟹工船」という作品の が、「比喩」と呼ばれる修辞法の使われているところであり、 たるところにみられ、 日本の領海からソ連領に入ろうとするあたりの描写である。 この作品の文体上の一大特徴となっている。 その多用ぶりが 太字にした部分

場面でもそのような通常の使い方をしているところはあるが、手足の冷えの比 関係があるもの同士を結び付け、 喩として「大根のように」とか、 うな」という表現を使っているところもある。 「過剰な比喩」ぶりであろう。他の場面には、 を追払う馬のように」というのは、あきらかに通常の比喩の範囲を逸脱する 普通「比喩」のレトリックは、 船の揺れを表すのに「背に食いついている虻 似通ったもの同士、あるいはなんらかの隣接 一方で他方を説明するために使われる。 降る雨の描写に「納豆 一の糸 この

べきだろう。そうした「過剰な比喩」の核心をなしているのが、 五感のすべてに働きかけるようなかたちで比喩が使われていることにも注 こでは視覚ばかりではなく触覚や温度感覚、 タージュ」をさらに超える、イメージの重なりを作り出し、 レアリズムの表現のような効果を作り出している。さらに映画とは違っ このような「過剰な比喩」は、先に述べたような映画の手法としての 運動感覚までが動員され、 一種のシュ 漁夫たちの 目す

「糞壺」

て描写している

たときに暴走する、条件づけられたものとして描くように変ってい 川の暴力性が、 うに思えるが、 ある種の人間の「本性」として描くというのではなく、なんらかの背景をもっ レタリア作家となった多喜二は、 「防雪林 」から「一九二八年三月十五日」、 多喜二の筆力によって突出した印象を残すことは間違いない このことにはさらに検証が必要だ。いずれにしてもここでの浅 こうした暴力を、 「蟹工船」への流れをみると、 とどめることのできない っているよ

【過剰な比喩の効果】

に見えた。夜近くなってきた。 もっと弱々しかった。空一面の吹雪は、風の具合で、白い大きな旗がなびくよう ツ、ガツに飢えている獅子のように、えどなみかゝってきた。船はまるで兎より、 カムサッカの海は、よくも来やがった、と待ちかまえていたように見えた。ガ しかし時化はやみそうもなかった。

柱につかまった。船は背に食いついている虻を追払う馬のように、 てしまうと、誰も一口も口をきくものがいなかった。ゴロリ横になって、鉄の支 うに冷えて、 に冷えて、感覚なく身体についていた。皆は蚕のように、各々の棚の中に入っ仕事が終ると、皆は「糞壺」の中へ順々に入り込んできた。手や足は大根のよ 漁夫は あてのない視線を白ペンキが黄色に煤けた天井にやったり、 身体をヤケに

殆んど海の中に入りッ切りになっている青黒い

丸窓にやり……中には、

動物なみの使役に耐えかねて、つい て立ち上がった労働者たち、だが…。 (映画「蟹工船」より)



ロシアの領海に入り、漁獲の拡大 をあせる監督・浅川とその手下た ち。その暴力支配は極限となった。 (映画「蟹工船」より)



かりの弔

のために着物を脱がせてみると、もらした小便の臭気にまみれ、

いた糞がこびりつき、ヘソは垢とゴミで姿が隠

周りには粘土のように乾

実際に彼らは

「糞」だった。

\して」

いる。

胸がすぐゲエと来そうな臭い」がし、そこで漁夫たちは

そこは語りのことばによって「糞壺」と呼ばれて

脚気が悪化して亡くなった一人の漁夫は、

作った缶詰ば、まるで糞紙よりも粗末にしやがる!」という言葉がもらされる。 督らが手土産に蟹缶を持って駆逐艦を訪れるシーンで、 てしまうほどの様子だったのである。 ンときた。胸が思わずカア 蟹の肉や茶色のド いてサロンで宴会が開かれた後、 「糞壺」とは て、 ってい 対極にあるサロンもまた臭気と無縁では 口 た。 嘔吐からは腐ったアル したものが、 ッとくる匂いだった」とある。この後、船長や監 ゴヂャ 他ならぬその 所のため ゴヂャ コー のタラッ ルの臭いが強く、 になった嘔吐が、 「糞紙」によって処理され 漁夫の口から プには ない 駆逐艦の士官を 「段々 鼻にプー 五、六段 に飯粒や 「俺達の

存在をめぐって企まれてある。 駆逐艦によってストライキを鎮圧されてしまっ 2

たあと、漁夫たちの一人は「献上品」を作るにあたってこういっている

るものが何かは、 **糞紙よりも粗末」に扱われるもの、** 「蟹工船」という小説の、 いうまでもなかろう。 衝撃的なことばの仕掛けは、この異臭を放

え!」という罵りのことばは、浅川監督や会社に対してばかりに向けられたも 敬罪」に問われて後に多喜二が検挙されることになったのも、そうした立場か なわけだ。当時の官憲の目も節穴であったわけではなかろう。 表現としてまだ穏やかで上品なのである。本当の文字通りの意味はもっと過激 化している存在なのである。 に扱われる。 結びつかせる。そこでは一つのイメージが、別のもう一つのものと重ね合わさ に対して発せられた、 のではない。天皇制を背景にした、 らすれば「当然」であったといえる。 もうお分かりだろう。 ここまで見てきたように、「過剰な比喩」はあるものと別のものとを強引に 入れ替わるような奇妙な効果があらわれる。 「俺達の本当の血と肉を搾り上げて作るものだ。 ってしまってから、腹痛でも起さねばい、さ」 漁夫はといえば それは 「俺達の本当の血と肉を搾り上げて作る」ものだ。その 深い呪詛のことばなのだ。 「献上品」に「石ころでも入れておけ!」 「糞壺」に押し込められ、 当時の資本主義・帝国主義の日本その 本編中のあちこちで発せられる フン、さぞうめえこったろ。 「蟹缶」は まさにその身体は 「糞紙より粗末」 この部分が というのは、

仕掛けによることを語ってきた。 「蟹工船」という小説の真のインパクトが、 一般社会を食い詰めたり、 ぬい詰めたり、だまされたりしてことばをもって作り上げられた 【サロンと「糞壺」】

合って「糞」

のような臭いがただよっている。 の空間は異臭に満ちている。

雑夫たちのハッチは沢

庵倉庫に隣り

漁夫たちの居室は

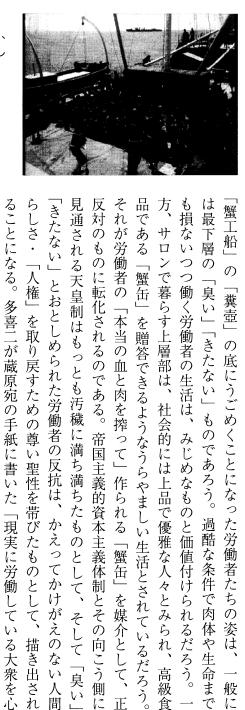
「豚のように 「豚小屋そっ

Vi る。 形ば 肛

177◇「マンガ蟹工船」解説

「糞喰

味方だと思っていた帝国海軍は たちあがった労働者たちを弾圧し た。(映画「蟹工船」より)



ンで暮らす上層部は、社会的には上品で優雅な人々とみられ、 つつ働く労働者の生活は、みじめなものと価値付けられるだろう。

生活とされているだろう。

高級食

そして「臭い

描き出され

「臭い」「きたない」ものであろう。過酷な条件で肉体や生命まで

の底にうごめくことになった労働者たちの姿は、

たことばの仕掛けを通じても、もたらされている。だからマンガ「蟹工船」 んでショックを受けた読者よ、是非一度、 「蟹工船」の衝撃力は、 小説をとくと味わってほしい。 調査に裏付けられた題材からばかりでなく、 そして一度読んだ人はもう一度、 を

底から揺り動かすだけの力」とは、こういう衝撃力のことをいうのだろう。

多喜二が蔵原宛の手紙に書いた「現実に労働している大衆を小

女子美術大学教授。 講演を担当。『国文学 解釈と鑑賞』別冊『「文学」としての小林多喜二』共同編集、 しまむら・てる 『臨界の近代日本文学』(世織書房 主催)、二〇〇五年「中国・小林多喜二国際シンポジウム」(河北大学主催) 一九五七年、 二〇〇四年「小林多喜二国際シンポジウム」(白樺文学館多喜二ライブ 東京生れ。 一九九九年) 東京大学大学院博士課程単位取得退学。 ほか。 の基調 現在、





右=一九三一年東京・阿佐ヶ谷で を囲む仲間たち の多喜二 左=小林多喜二の遺体

(こばやし・たきじ 原作者小林多喜一プロフィ 一九〇三~一九三三) ル

学しました。 ながら小樽高等商業学校、 一家は小樽に移住。多喜二は伯父のパン工場で働き 生まれ。 一九〇三(明治三十六)年十月十三日、 父・末松、母・セキの次男。四歳の時、 現在の小樽商科大学に進 秋田・大

島武郎、 になることを志していました。こうしたことから同 高商には教師としては経済学者で歌人の大熊信行 行に励みました。 人雑誌『クラルテ』の作品を主宰し、 校卒業後、北海道拓殖銀行に勤務するかたわら、 た。多喜二は在学当時から志賀直哉と文通し、 家伊藤整と文学的環境が充実を迎えていたころでし が、二年生に小林多喜二が、一年生に後の詩人・作 られます。 に幅広く活躍する卒業生を送り出してきたことで知 同校は全国五番目の官立高等商業学校として開 実業界のみならず、 武者小路実篤らの作品に学びながら文学修 特に一九二二年(大正十一年)は、 芸術界、学界、官界に非常 志賀直哉、 文豪 有 同 樽

「一九二八年三月十五日」(二八年)、 にデビューしました。その後、『戦旗』に発表の 戦線』に掲載の戯曲「女囚徒」でプロレタリア文壇 に寄稿を依頼して親交を深め、 多喜二は、同誌に当時のプロレタリア文学をリ 『種蒔く人』同人の小牧近江、 同誌後継誌の 「蟹工船」(二 新井紀一など 「文芸

> 表、遺体の解剖も妨害し、 死させられました。当局はその死因を心臓マヒと発 の書としてきました。 活動に入り、三三年二月二十日、 三月のプロレタリア文化運動に対する大弾圧で地下 時非合法におかれていた日本共産党に入党。三二年 は満州事変後の日本の侵略戦争の拡大に反対し、 日本プロレタリア作家同盟書記長として三一年秋に で面貌を新たにし、つねに新しい風を起こしました。 京新聞』)、「党生活者」(『中央公論』)などの代表作 れて上京。 (初出タイトルは「新女性気質」、『都新聞』現『東 「不在地主」(『中央公論』)発表を機に拓銀を解雇さ 九年)でプロレタリア文学の金字塔を築いたものの. 以後は作家として一意専心し、「安子」 その作品を戦後まで国禁 特高に検挙・拷問 当

ので、 元のフアン、小樽商大同窓会が中心となって「小林悼んだ伊藤整、志賀直哉等の作家、学者、友人、地 多喜二碑建設期成会」を作り、 林多喜二文学碑」(本郷新製作)があります。 しまれています。 郷里の小樽には、 二十九歳の若さで生命を絶たれた小林多喜二を ひろく多喜二を語りつぐ象徴として市民に親 市内を眺望する旭展望台に「小 六五年に建碑 たも

国・河北大学でも開催され、再評価の声が高まって ウムを○三年より二年連続で開催、 多喜二ライブラリ ます。 小林多喜二生誕一〇〇周年を記念して白樺文学館 (白樺文学館多喜ニライブラリ (佐野力館長) が国際シンポジ 〇五年には中

特選図書

覧

評伤研究

- ●倉田 稔著『小林多喜二 伝』(四六判 928頁 定価 7140円 論創社)
- 森熊猛著『マンガ 1 0 0 年 見て聞いて』(A4判 120頁 定価 2500円 白樺文 学館多喜二ライブラリー)





DVD/VHS 映画「時代を撃て・多喜二

牛地・秋田、青春の地・小樽、投獄の傷を 癒した神奈川・七沢温泉、師と仰ぐ志賀直 哉を訪ねた奈良、革命作家として闊歩した 東京をロケーションし、その原風景をたど り、家族愛、友情、ロマンスを浮き彫りに したドキュメンタリー映画(池田博穂監督) =特典映像=小森陽-vs有馬理恵対談つき



上映時間 88分 定価3000円

●製作 映画「時代を撃て・多喜二」製作 委員(柏木秀之、渡辺みどり、白樺文学館、 共同企画ヴォーロ、一水社不動産部、文工 ンタープライズ、杉本和幸)

お求めは、(有) 共同企画ヴォーロ 03-3812-9215へ。

白樺文学館多喜二ライブラリー

〒270-1153 千葉県我孫子市緑2-11-8 Tel.04-7169-8468 Fax.04-7169-1837 (担当佐藤)

多喜二国際シンポジウム報告集







- 『小林多喜二生誕100年・没後70周年記念シンポジウム記録 **集**』(A4判 120頁 定価1700円 東銀座出版社)
- ●島村輝·女子美術大学教授監修『**生誕100年記念小林多喜二** 国際シンポジウムPart II 報告集』(A 4 判 200頁 定価 2500円 東銀座出版社)
- ●張如意 中国・河北大学教授監修『**いま中国によみがえる小林 多喜二の文学**─中国小林多喜二国際シンポジウム論文集─』(A 5 判 304頁 定価1600円 東銀座出版社)

作品論











- ●伊豆利彦著『戦争と文学―いま小林多喜二を読む』(A 5 判 224 頁 2000円 本の泉社)
- ●浜林正夫著『小林多喜二とその時代―極める眼―』(四六判 180 頁 定価 2000円 東銀座出版社)
- ●松本忠司著『ロシア文学と小林多喜二─魂のメッセージ』(四六 判 220頁 定価2000円 東銀座出版社)
- ●土井大助著『よみがえれ 小林多喜二』(四六判 160頁 定価 1365円 本の泉社)
- ●松澤信祐著『小林多喜二の文学 ―近代文学の流れから探る―』 (A5判 312頁 定価3150円 光陽出版社)

「防雪林」 ―その可能性(綾目広治・ノートルダム清心女子大学教授)

「三・一五事件」をめぐる文学的表象としての「一九二八年三月十五日」(土屋 忍・武蔵野大学専任講師)

交錯する「蟹工船」と「上海」をめぐる序説(十重田裕一・早稲田大学教授)

「不在地主」における革命的労農同盟闘争の問題(篠原昌彦・苫小牧駒沢大学教授) 「工場細胞」一コンテクストとしての一九二九年の小樽(和田博文・東洋大学教授)

「オルグ」の恋愛と身体(中村三春・山形大学教授)

「独房」の落書き(楜沢 健・早稲田大学講師)

母たちのポリフォニー―「母たち」と1931年代の短編にみる女性表現(長谷川啓・城西短期大学教授)

多喜二・女性・労働一「安子」と大衆メディア(中川成美・立命館大学教授)

「転形期の人々」論(宮沢 剛)/こぼれ落ちた血のゆくえ―『沼尻村』再読(五味 渕典嗣・大妻女子大学専任講師)

「地区の人々」一〈地区〉の若き闘士達へ(山岸郁子・日本大学助教授)

「党生活者」論序説―「政治」と「文学」の交点(島村 輝・女子美術大学教授) 小林多喜二の日記(荻野富士夫・小樽商科大学教授)

監獄の窓から見る空は何故青いか一小林多喜二の獄中書簡(竹内栄美子・千葉工業大学教授)

映画「時代を撃て・多喜二」(池田博穂・映画監督)

■多喜二の足跡

小林多喜二と秋田一多喜二文学におけるヒューマニズムと叙情の形成(工藤一紘・秋田工業高校高等専門学校非常勤講師)

小林多喜二と小樽(倉田 稔・小樽商科大学特任教授)

多喜二の東京―そのまなざし(佐藤三郎)

- ■多喜二の顕彰 /秋田県多喜二祭(佐藤好徳・秋田県多喜二祭実行委員会代表委員)
- ■多喜二と研究会―読書会「小林多喜二をふるさとで読む会」(佐藤 守・ふるさとで読む会事務局)/中国 小林多喜二国際シンポジウム―多喜二研究史に残る成果(松澤信祐)
- ■多喜二と文学館―市立小樽文学館(玉川 薫・市立小樽文学館学芸員)/白樺文学館多喜ニライブラリー(佐藤三郎)
- ■小林多喜二一その歩みと作品〈年譜〉(佐藤三郎・白樺文学館多喜ニライブラリー学芸員)

お求めは、至文堂

〒162-0812東京都新宿区西五軒町4-2

TEL: 03-3268-2441 FAX: 03-3268-3550

そうした「文学」 それとともに今日、「文学」 的背景との関連を否定することはできな った。 の文学と生涯に新たな光が当てられるようにな 本ばかりでなく世界の各方面から、 たる二〇〇三年をひ小林多喜二の生誕ー 再構築する試み の再評価が強 多喜二を語る際、 とつのき 0 その歴史的文脈、 年 的観念から、 没後 う か 七 〇周年にあ ۲ 林多喜二 作品そ



A 5 判:294頁 **定価2600円** (本体2476円)

【執筆タイトル、執筆者リスト】

座談会:今日の時代と小林多喜二

<日高昭二(神奈川大学教授)/小森陽一(東京大学教授) /島村 輝(女子美術大学教授)>

■多喜二をめぐる時代と人々

小林多喜二とヒューマニズム(布野栄一・日本大学名誉教授) 多喜二と志賀直哉、芥川龍之介一近代文学の流れから捉える(松 澤信祐・文教大学名誉教授、河北大学名誉教授)

小林多喜二と社会主義(祖父江昭二・和光大学名誉教授)

小林多喜二とモダニズム (神谷忠孝・北海道文教大学教授)

小林多喜二と反戦平和(伊豆利彦・横浜市立大学名誉教授)

小林多喜二と母セキ(北条常久・秋田市立中央図書館明徳館館長) 小林多喜二と『文芸戦線』―1927年の「作品行動」(大和田茂・東京都立工芸高校教諭)

小林多喜二と伊藤整一「生きる怖れ」をめぐる問題(渥美孝子・ 東北学院大学教授)

松田解子の多喜二受容(高橋秀晴・秋田県立大学准教授)

小林多喜二を演じることの自分なりの理解―「小林多喜二―早春の賦―」(上野日呂登・劇団民芸藝演出部)

<広告>

国文学

解釈と鑑賞 別 北条常久・島村輝の三氏による編で、 小林多喜二の文学を対象と

た国文学誌初の専集。二〇〇六年九月、至文堂より刊行。

●漫画家 プロフィール 藤生ゴオ (ふじお・ごお) 群馬生まれ。

商業デザインの仕事を経て、漫画・イラストなどを描く。主な著書に人物日本史『楠木正成』(学研)、『騎兵隊の反乱』(柏書房)、『ゴルフトラブル110番』(日本文芸社)など。

30分で読める…大学生のための マンガ蟹工船

2006年11月7日 初版

原作/小林多喜二

作画/藤生ゴオ

企画編集・白樺文学館多喜二ライブラリー

〒270-1153千葉県我孫子市緑2-11-8

TEL: 04-7169-8468

FAX: 04-7169-1837

発売元·東銀座出版社

〒113-0033東京都文京区本郷1-1-1

TEL:03-3813-4561 FAX:03-3813-4564

●漫画家 プロフィール 藤生ゴオ(ふじお・ごお)

群馬生まれ。

商業デザインの仕事を経て、漫画・イラストなどを描く。主な著書に人物日本史 『楠木正成』(学研)、『騎兵隊の反乱』 (柏書房)、『ゴルフトラブル110番』 (日本文芸社)など。

30分で読める…大学生のための マンガ蟹工船

2006年11月7日 初版

原作/小林多喜二

作画/藤生ゴオ

企画編集・白樺文学館多喜二ライブラリー

〒270-1153千葉県我孫子市緑2-11-8

TEL: 04-7169-8468

FAX: 04-7169-1837

発売元·東銀座出版社

〒113-0033東京都文京区本郷1-1-1

TEL:03-3813-4561 FAX:03-3813-4564